

農作物病害虫発生現況情報（9月） 水稻編

1 いもち病

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は37.5%（平年27.9%）であり、平年よりやや高かったが、発生程度少以上の発生圃場率は6.8%（平年6.4%）であり、平年並であった（図1）。
 (2) 地域別では、発生程度中以上の発生圃場率は県中、沿岸部で高かった（図2）。

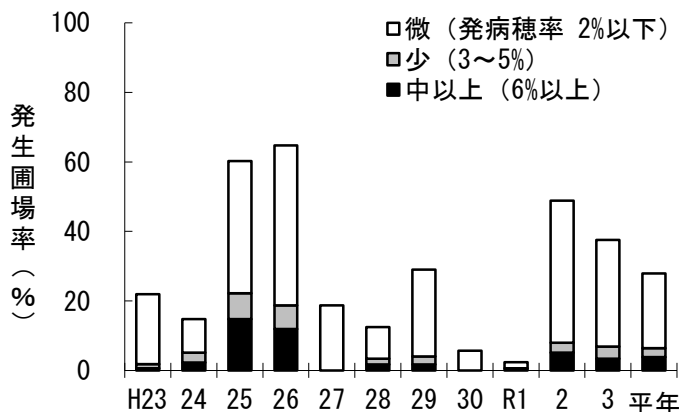


図1 穂いもち発生圃場率の年次推移 (収穫期)

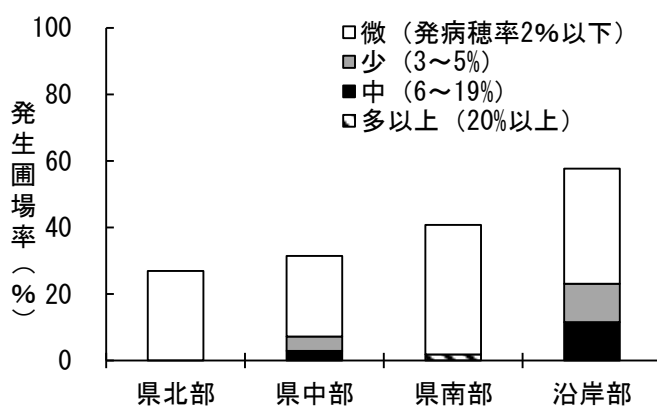


図2 穂いもち発生圃場率の地域別推移 (収穫期)

2 紋枯病 (疑似紋枯病を含む)

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は87.5%（平年75.1%）であり、過去10年間で最も高かった（図3）。

3 ごま葉枯病

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は9.1%（平年3.6%）であり、平年より高く、特に沿岸地域で多く見られた（図4）。

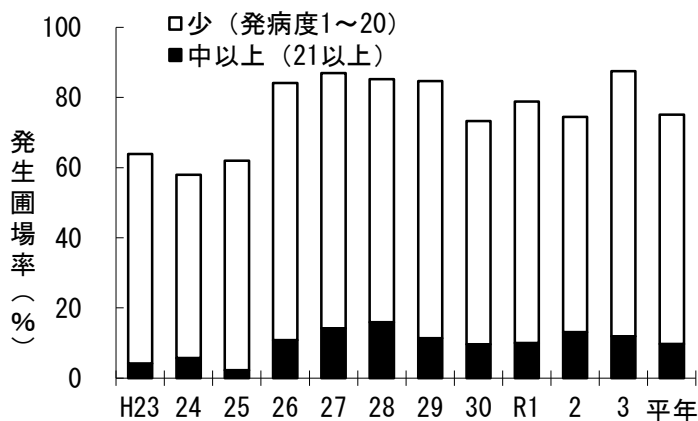


図3 紋枯病発生圃場率の年次推移 (収穫期)

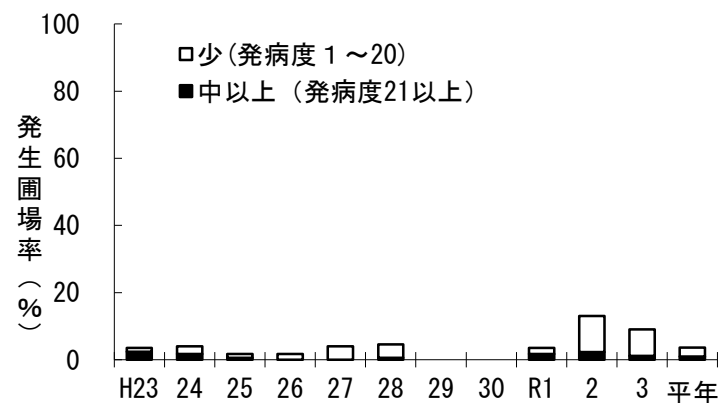


図4 ごま葉枯病発生圃場率の年次推移 (収穫期)

4 稲こうじ病

- (1) 収穫期の巡回調査では、発生圃場率は4.6%（平年4.2%）であり、平年並であった（図省略）。

5 斑点米カメムシ類

- (1) 基準圃場（北上市成田）におけるすくい取り調査では、8月第5半旬以降、平年より高く推移した（図5）。
- (2) 収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は62.5%（平年35.5%）であり、発生程度中以上の圃場率は27.3%（平年15.3%）でともに平年より高かった（図6）。
- (3) クモヘリカメムシの発生が、沿岸部の一部本田で確認された。

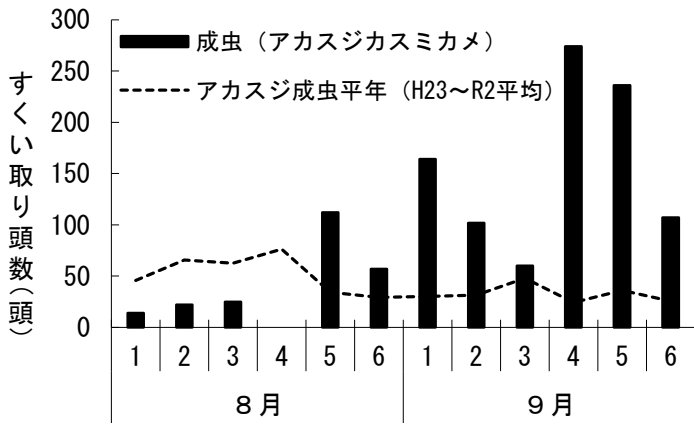


図5 基準圃場（北上市成田）におけるアカスジカスミカメ成虫の発生推移（すくい取り、往復20回振）

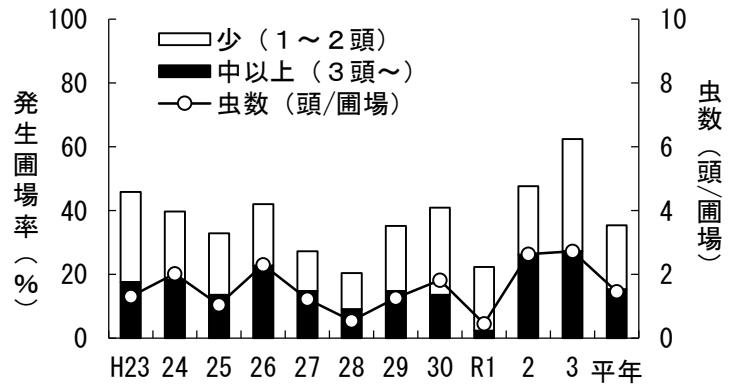


図6 斑点米カメムシ類の発生圃場率及びすくい取り虫数の年次推移（収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

6 ウンカ類

(1) セジロウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は30.7%（平年31.1%）で平年並であった（図7左）。

(2) ヒメトビウンカ

収穫期の本田内すくい取り調査では、発生圃場率は92.0%（平年63.6%）で平年より高かった（図7右）。

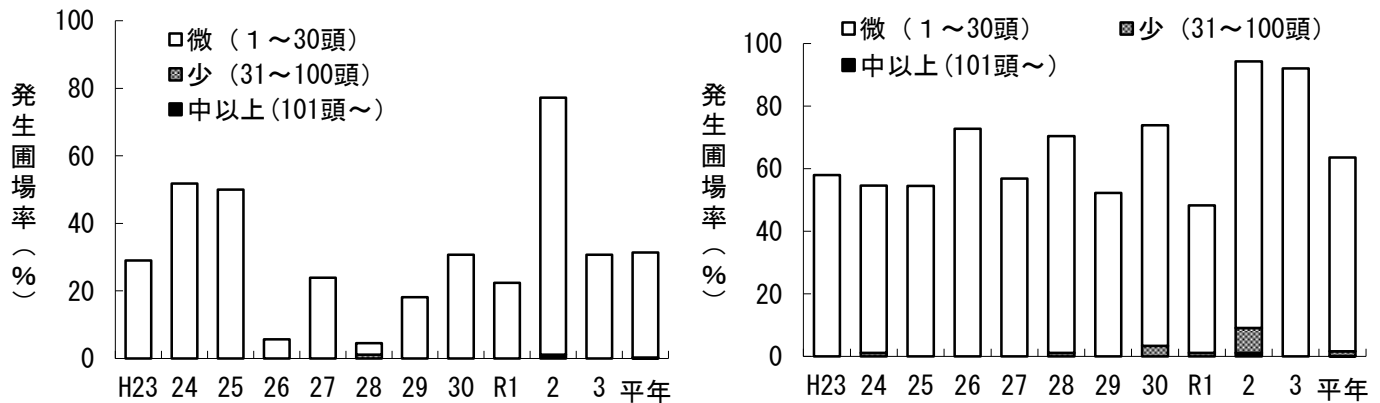


図7 ウンカ類の発生圃場率の年次推移

（左：セジロウンカ、右：ヒメトビウンカ、収穫期、本田すくい取り、往復20回振）

7 ツマグロヨコバイ

- (1) 収穫期の本田内すくい取り調査では、例年確認される沿岸部の2圃場で発生が確認された。

8 イネキモグリバエ（イネカラバエ）

- (1) 収穫期の巡回調査では、一部の圃場で被害穂が見られ、発生圃場率は4.5%（平年1.1%）で平年より高かった。